東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１１年１０月21日

挑発 扇動とその害

親愛なるムスリの皆様

私たちの教えにおいて「挑発・扇動」という言葉は、人々に対し悪事を働くこと、彼らを災いに遭わせること、そして一般的に、集団において争いを生じさせることといった悪い行いや態度のために用いられます。扇動は社会のそれぞれの階層に関する問題です。何らかの集団において、このような行為に出る可能性のある人々や思想を存在させること、そのような状態の存在を許すことは、まず何よりもその集団自体の存在や継続に関わってくる事柄なのです。集団における挑発・扇動について重要だと思われる点をお話しましょう。

悪意の解釈、陰口、悪口はイスラームの教えでは禁止されています。クルアーンの「 信仰する者よ，邪推の多くを祓え。本当に邪推は，時には罪である。無用の詮索をしたりまた互いに陰日してはならない。死んだ兄弟の肉を，食べるのを誰が好もうか。あなたがたはそれを忌み嫌うではないか。アッラーを畏れなさい。本当にアッラーは度々赦される方，慈悲深い方であられる。」（部屋章第１２節）という章で明白に示されているように、ムスリムは他のムスリムの兄弟についてよい解釈をするべきです。なぜならこれは教えが要するものであるからです。さらにこの扇動も、この姿勢を必要なものとするものです。

扇動の最も重要な行為、態度は嘘をつくことです。特に一部の人々は、ありもしないことをあったかのように話すことで集団を挑発し混乱を生じさせます。扇動の最もよく知られた形の一つは、人の言葉を他の人に悪い形で伝えることです。アッラーは次のように仰せられているのです。「あなた
は、卑劣な誓いをたてるどんな者にも屈従してはならない。中傷し、悪口を言い歩く者、善事を妨げ、掟に背く罪深い者」（筆章１０節－１２節）

挑発、扇動では、二枚舌を持っている人々がその要因となることがあります。こういった人々について預言者ムハンマドは次のようにおっしゃられています。「最後の審判の日、人々の大群の中に二枚舌の人がいるだろう。彼らはこちらには違うことをいい、あちらにはまた違うことを話す。」

扇動の種類によってその害にも大小や違いがあります。歴史を通してムスリムの間に影響をもたらす扇動がなされてきました。それらの害やもたらすものもそれに比例して大きく、継続的なものでした。一つの国もしくは集団で生じたこの種の扇動は、しばしばその国の崩壊、その集団の混乱や壊滅を招いてきました。小さな集団、さらには家庭内での挑発や扇動も、その集団や家庭の崩壊を招き、現世と来世での彼らの生をめちゃくちゃなものとしてきました。だからこそクルアーンでアッラーは「本当に迫害は殺害より、もっと悪い。」（雌牛章１９１章）と仰せられたのです。

従ってムスリムは、常にこのような振舞いを避けるべきです。またそれを生じさせるような振舞いも避けなければならないのです。そうでなければ、なだれのようにどんどん大きくなる挑発や扇動は、罪びとであれ無垢であれ、全てを、皆を飲み込んでしまうかもしれないのです。